公益財団法人
日本アジア医療看護育成会
JAMNA

発行元：公益財団法人日本アジア医療看護育成会 JAMNA
発行住所：〒454-0932 名古屋市中川区中島新町三丁目 2518 番地 ミライカビル 4 階

日本アジア医療看護育成会からの活動トピックス

2025 年 10 月号

ハートフルナース

高齢社会の課題に挑むインドネシアの現場から

JAMNAセミナー in ムハンマディア大学ゴロンタロ校

――認知症予防と筋力向上の実践的アプローチ――

2025年8月2日（土）、インドネシア・ゴロンタロ州の郊外に位置するムハンマディア大学講堂にて、当法人による「高齢者における認知症予防と筋力向上のための学術的戦略」についての医療セミナーを開催しました。当法人としてのゴロンタロ州訪問は今回が初めてでしたが、現地の医療従事者を対象とした本セミナーには、対面・オンライン合わせて779名が参加。インドネシアでは2023年時点で65歳以上の高齢者人口が約2000万人を超え、今後も急速な高齢化が進行すると見込まれています。平均寿命の延伸により、認知症やフレイル、サルコペニアといった高齢者特有の健康課題が今後の大きな社会的テーマとなっており、同地域における高齢者ケア分野への関心の高さをうかがわせる盛況ぶりとなりました。

会場の様子

第 1 部の様子

「認知症の予防とリハビリテーション」

講演者　熊澤和秀氏

セミナーは3部構成で行われ、第1部では、当法人職員で看護師の熊澤和秀氏が「認知症の予防とリハビリテーション」について講演しました。認知症の進行を緩やかにし、QOLを保つための生活習慣や環境整備、また非薬物療法（Non-Pharmacological Intervention）の有効性について具体例を挙げて解説。特に注目を集めたのは、参加者とともに実際に身体を動かしながら体験した「認知機能活性化を目的としたリハビリテーション」の実演でした。

「運動の効果と安静の害」

講演者　森山善文氏

第2部では、健康運動指導士の森山善文氏が「運動の効果と安静の害」と題して、骨格筋の加齢性変化と運動療法の関係性について講義。寝たきりを回避するための筋力強化やバランス訓練の重要性、そして安静がもたらすリスクを科学的データに基づき説明しました。「リハビリテーションは高齢者だけで

（裏面へ続く）

なく、すべての年代にとっての〝未来投資〟である」とのメッセージは、参加者に強い印象を残しました。

「健康的な老後に向けた生活習慣」

講演者　ロスミン氏

第3部では、現地・ムハンマディア大学老年看護学科長であり、保健学部倫理委員会委員長でもあるロスミン氏が登壇し、「健康的な老後に向けた生活習慣」について講演。インドネシアにおける高齢者介護の現状、特に家族中心のケア体制や、認知症患者を受け入れる入所施設の不足と課題について、数多くの事例を交えながら現場の声を伝えられました。「社会が高齢者に何を与えられるかではなく、高齢者が地域でどのように活躍できるかを考える時代です」という言葉に、参加者たちも深く頷いていました。

第 2 部の様子

第 3 部の様子

今回のセミナーでは、当法人としてこれまで行ってきたインドネシア各地でのセミナー同様、日本の高齢者ケアの知見と、インドネシアの地域特性を結びつけることを目的としました。現地の参加者からは「認知症患者への声かけや表情の使い方など、日本で行われている具体的なアプローチを学ぶことができた」「運動が予防医療になるという視点を初めて知った」といった感想が多く寄せられ、今後の教育活動や現場実践に役立てていきたいとの声が挙がりました。

セミナー終了後には質疑応答の時間も設けられ、インドネシアの医療現場における実情や、看護教育のカリキュラムとの接続可能性について、熱心な議論が交わされました。また、現地医療機関とのネットワーク強化も進みつつあり、今後の継続的な人材育成連携や研修実施の足がかりとなることが期待されます。

当法人では今後も、単なる講義形式にとどまらず、双方向型・参加体験型の研修を通じて、科学的根拠に基づく日本の医療・介護技術をインドネシア各地へ届けてまいります。そして現地教育機関・行政機関とのパートナーシップを強化しながら、地域医療の質向上と次世代人材の育成に貢献していく所存です。